

ハワイトライアスロン完走



ヤッター!

下田 智明さん

「日本での応援はたいへい「ガンバレ」「負けるな」でしょう? ところが、向こう(ハワイ)では「ユー・アー・グレート」「ビューティフル」。励ましがとても温かいし、選手も沿道もレースを心から楽しんでいる感じです」

昨年10月、ハワイでトライアスロンの世界大会が開かれた。各国から1000人を超す男女が「鉄人」を目指し、水泳、自転車、フルマラソンを組み合わせた「究極のレース」に挑んだが、青い目にまじって28歳の鳥取青年の姿も。12時間10分47秒、452位で見事完走し、さぞや筋肉隆々のターザン型人間では一。

「そんなことない。中学の同窓会でも、ドンくさかったお前がトライアスロンに出るなんて、と言われたりして」「レースでは自分との戦い、人々とのふれあい、大自然との一体感、1日に人生が3回楽しめますよ」。県内で一緒に楽しむ仲間を募集している。県信連に勤務。八頭郡佐治村刈地。

「おとしの村の正月マラソンで、トライアスロンをやっていた村の教育委員会の船越修さんから声をかけられたのがきっかけ。学生時代はスポーツらしいスポーツをしたこともないし、水泳は苦手。ただ走るのが好きで、月に200㌔は走っていました。半年後には、いきなり琵琶湖トライアスロンに挑戦。湖

大自然相手に

レース楽しむ

の冷たさや自転車のパンクを乗り越えて完走できた時は、「ヤッター」って気分でした。でも、このレースは何回出ても「今度は完走できるかな」と不安。何しろ戦う相手は、暑さ寒さや風、大自然なんですから」

「ハワイでは年配の人や女性、片腕や足の不自由な人も参加していました。みんな勝つことより、レースそのものを楽しんでいるようです。水泳3・9㌔、自転車180・2㌔、そして42・195㌔のフルマラソン。ゴールした瞬間は「もう二度とやりたくない」と思うのに、1時間もすれば「来年も出るぞ」。あの不思議な充実感がたまらない」

「この体さえあれば、たとえ乞食(こじき)になっても生きていける、という自分への自信、

心の豊かさが得られました。かっよく見られるけど、本当は地味な競技。でも、ジョギングシューズひとつでだれでも練習を始められます。いま、県内の仲間で「ラング・ラウフ(独語で「長い道」)というチームを作っていますが、何かに挑戦してみたいと思っている人、あなたもトライアスロンをやってみませんか」

「ラング・ラウフ」の問い合わせ＝鳥取市二階町1丁目、本城サイクルワークス(電・0857-22-3868)